自治会による自主防災訓練の様子（赤堀西自治会）

防災対策について

質問（大豆生田春美議員） 市民を対象とした防災セミナーについて伺います。

答弁（総合政策部長） 防災セミナーについては、防災に関するさまざまな情報提供、被災者の体験談あるいは技術の習得などが盛り込まれた内容であり、防災や減災の基本であります災害に対する意識の醸成を図る上で有効な施策であることから、開催形態はさまざまでありますが、県内外においては、地域のリーダーや自治体の担当者などを対象として各地で開催されております。

本市においては、自治会が自ら結成した自主防災組織が二十六組織結成されておりますが、リーダー等の研修については、県消防学校が毎年開催する自主防災組織の教育事業に参加を予定いたしております。

防災セミナーの開催については、現時点での計画はありませんが、今後の自主防災組織の結成の推進あるいは消防団との連携による地域防災力の推進を図るため、各組織のリーダー等を対象としたセミナーの開催について検討していきたいと考えております。

また、防災士という資格がありますが、これは社会のさまざまな場で減災と防災力の知識や技能を身につけ、いざというときに十分に力を発揮できるようにするものであります。その資格を有する者を、今後増やせるよう資格受験費用等の助成を検討していきます。

なお、市民の防災意識の向上については、広報「おおたわら」へ関係記事を掲載し、周知、推進を図っていきます。

市有施設のトイレについて

質問（前野良三議員） 市有施設のトイレについて、洋式トイレの設置状況と改善策について伺います。

答弁（産業文化部長） 市の公共施設のうち、一般市民の方が利用する庁舎、公民館、社会教育施設及びほほえみセンター等の市有施設は、公衆トイレを含めまして約百七十施設、便器の総数は約七百八十か所あります。そのうち洋式便器は三百七十か所で、その割合は全体の約47％となっております。最近設置したトイレは、すべて洋式と和式が設置してあります。昔の古い公衆トイレについては和式のみで、洋式便器ゼロというところもあります。既存の一部施設のトイレについては、改修を行い、洋式便器としたところであります。

その中で、さらに高齢者や障害者の方及びお子様連れの方など、誰でも使いやすい多目的トイレを備えた施設が約五十施設あります。近年の生活様式の変化や高齢化によりまして、洋式トイレの需要が高まってきているところでありますが、利用者の中には洋式トイレを嫌がる方もいることから、施設の計画時においては、その点も考慮して数を決めているところであります。

最近設置しているトイレについては、先ほど申し上げましたように、和式、洋式両方を備えた状況ですが今後は、その他既存の施設におきましても、利用状況や要望を見きわめながら改修をしていきたいと考えております。

トイレの改善を目指します